

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

110

秋の企画展 東北大学総合学術博物館のすべてⅫ

考古学からの挑戦
— 東北大学考古学研究の軌跡 —

福島県立博物館



秋の企画展 東北大学総合学術博物館のすべてⅧ

「考古学からの挑戦」

—東北大学考古学研究所の軌跡—

会期 平成二五年一〇月五日(土)～二月一日(日)



細石刃ほか (新潟県荒屋遺跡 旧石器時代)



遮光器土偶 (秋田県藤株遺跡 縄文時代)



液体濾過土器 (福島県電原遺跡 縄文時代)

東北大学における考古学研究は、理学部の松本彦七郎、同大学医学部解剖学教室の長谷部言人・山内清男らにより、大正年間から開始されました。大正一四(一九二五)年には、喜田貞吉などが中心となり「奥羽史料調査部」を創設し、東北地方史研究の拠点として、原始・古代の資料収集と調査研究を推し進めました。このような研究の流れは、サハリン(樺太)の調査や弥生時代遺跡や陸奥国分寺跡・多賀城跡の調査などで大きな成果をもたらした伊東信雄や、旧石器時代の研究に精力的にとりくんだ芹沢長介に受け継がれました。長年にわたる調査・研究によって蓄積されてきた膨大な資料の多くは現在、東北大学片平キャンパス内にある「文学研究科考古学陳列館」に収蔵されており、その一部は東北大学総合学術博物館において一般に公開されています。

今回の企画展では、収蔵されている膨大な資料のなかから、福島県関連の資料も含め、考古学の研究史に登場する著名な遺跡の出土資料を中心に紹介し、先学が歩んできた考古学研究所の足跡をたどります。

展示構成

第1章 人類文化の起源を求めて ～最古の狩人たち～

旧石器時代研究を精力的に推し進めた芹沢長介が調査した資料を紹介するとともに、日本における旧石器時代研究の課題を浮き彫りにします。

おもな展示資料

大分県岩戸遺跡出土資料
長崎県福井洞穴出土石器

第2章 縄文文化の探究

縄文時代の多彩な文化を、亀ヶ岡遺跡や沼津貝塚などから出土した資料によって紹介するとともに、縄文時代の終末時期に関する論争(ミネルヴァ論争)についても考えます。

おもな展示資料

青森県亀ヶ岡遺跡出土資料

宮城県沼津貝塚出土骨角器(重文)



緑釉陶器（宮城県多賀城廃寺跡 平安時代）



長頸壺（宮城県西浦遺跡 弥生時代）



頭椎大刀（宮城県山岡古墳 古墳時代）

宮城県大木田貝塚出土資料
福島県竈原遺跡出土資料

第3章 東北の弥生文化の実像を求めて ～北にひろがる米作り～
東北地方における弥生文化の実像を追究してきた伊東信雄などの研究業績とその意義について、南小泉遺跡や垂柳遺跡などの資料から振り返ります。

おもな展示資料 宮城県南小泉遺跡出土資料
青森県垂柳遺跡出土資料

第4章 東北の古墳文化の解明に挑む ～一枚の鏡から～

東北地方における古代史研究の画期となった会津大塚山古墳の調査や集落跡の研究史上著名な南小泉遺跡の調査などから、古墳時代研究の成果を紹介します。

おもな展示資料 福島県会津大塚山古墳出土資料（重文）
宮城県経ノ塚古墳出土埴輪（重文）

第5章 古代陸奥国を掘る ～律令支配のあかし～

東北地方の古代史研究に大きな成果をもたらした、多賀城跡、陸奥国分寺跡などの調査を、出土した瓦などの資料を紹介しながら振り返ります。

おもな展示資料 宮城県多賀城跡出土資料
宮城県陸奥国分寺跡出土資料

終章 考古学研究史に足跡を印した東北大学の先駆者

貝塚の調査に層位的な方法を導入した松本彦七郎をはじめ、東北大学の考古学研究に足跡を残した先駆者を写真パネルで紹介します。

震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム
in 会津若松

夏の企画展「対決！恐竜展 テイラノサウルスとトリケラトプス」関連行事

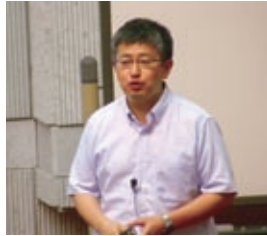
●企画展記念講演会「最新恐竜学」

日時：八月二一日（日）一三時三〇分～一五時

講師：国立科学博物館地学研究部研究主幹

真鍋 真氏

真鍋先生の講演は、スクリーンに映し出されたイラストと共に、星新一のショート・ショート「午後の恐竜」の朗読で始まりました。一日に締められた「地球の歴史」の幻想の中に登場するさまざまな古生物たち。もちろん恐竜もいます。先生は、このSF小説に取り上げられた古生物一つ一つの特徴を最新の知識に基づいて説明することで、地球生命史の概要を話されました。



真鍋真氏の講演

そしていよいよ「最新恐竜学」の本題に入ります。恐竜と呼べる爬虫類にはどんな特徴があるのか？ また、鳥は恐竜の仲間に含まれるのか？ など、恐竜の基本的な系統や分類の話にも、最新の研究に基づく話題が登場しました。そしてアロサウルスの復元の話や、テイラノサウルスとトリケラトプスの「戦い」の話など、今回展示された恐竜に関する最新の話題についても話していただきました。

講演終了後には聴衆から数多くの質問が出され、講演会は予定時間を大幅に超えて、盛況のうちに幕を閉じました。

●企画展イベント・ミュージアムイベント

「夏休み恐竜ナイトミュージアム」

日時：八月一七日（土）一七時三〇分～一九時

解説：学芸員 相田 優

ナイトミュージアムは、参加者の皆さんが前半組と後半組に分かれ、二回行いました。展示室に入ると、みんなが手にした懐中電灯の明かりに照らされて、暗闇の中に何体もの恐竜の全身骨格が浮かび上がります。興味半分、小さい子供たちは怖さも半分、不思議な感覚の中で、恐竜の骨格を一つ一つ照らして見て回りました。実は、このナイトミュージアムには、参加者の皆さんにも当日までお知らせしていなかったサプライズがありました。それは福島テレビの浜中順子アナウンサーによる絵本の読み聞かせです。浜中さんは御好意によりボランティアとしてお出で下さいました。絵本のタイトルは「おまえうまそうだな」。テイラノサウルスが、自分をお父さんと思いこんでしまったアンキロサウルスとの間に心を通わせる愛情物語です。思わぬプレゼントに大喜びし、お話を聞いてポロリと涙が流れた人もいたのでは？ こうしてイベントは大盛況のうちに終了しました。



浜中順子さんの絵本の読み聞かせ

●実技講座「ペーパーアートで恐竜をつくろう」

日時：八月二四日（土）一三時三〇分～一五時

講師：美術家 半沢 政人氏

「一枚の紙から、誰でも簡単に恐竜を作ることができる」という今回のペーパークラフトを考えていただいたのが、講師の半沢政人氏です。半沢氏は、何十回、何百回と試行錯誤を重ねられ、恐竜四体のペーパークラフトを考案してくださいました。一枚の紙（厚めの）に恐竜を上から見た絵が印刷されており、指定された線にはさみを入れて真ん中を折って立体的にすればよいという簡単なのですが、恐竜の特徴を細かい部分まで表現されているので、なかなか「かっこいい」恐竜に仕上がっていました。さらに、テイラノサウルスの頭部やトリケラトプスの角などは、切る線や折る線に工夫が凝らされ、リアルに表現できるようになっていました。



小学校の先生を経験されている半沢氏は、説明がわかりやすく、聞き手をひきつける話術を心得ておられ、子どもたちも楽しそうにお話を聞いていました。また、ひとつのテーブルに座った数人をひとつのグループとして、その中で役割分担を決めたりするなど「班活動」の手法も取り入れ、作業が進むにつれて参加者同士の交流が深まっていったようです。一時間半の時間もあっという間に過ぎ去り、四体の恐竜を完成させた満足感いっぱい笑顔で終了することができました。

Q・秋の企画展「考古学からの挑戦―東北大学考古学研究所の軌跡―」の見どころを教えてください。

A・最も見ごたえのあるものは、縄文時代のコーナーに展示されているコレクション資料だと思えます。

まずは久原コレクションです。このコレクションは、日立製作所の基礎を築いた実業家、久原房之助から一九二九（昭和四）年に、東北帝国大学法文学部に寄贈された資料です。これらの大部分は、弘前市出身の画家、佐藤部が青森県津軽地方を中心とする縄文時代の遺跡から収集した資料で、久原の別邸（二楽荘）に収蔵されていたのですが、学術研究所の資

クローズアップ秋の企画展

料として大学に寄贈されました。展示されているのはコレクションの中のほんの一部にすぎませんが、青森県十腰内遺跡や同県亀ヶ岡遺跡など、考古学の研究史上著名な遺跡から出土した土器が含まれています。これらの中には赤や黒の漆で彩色された精緻なものもあります。

もうひとつのコレクション資料である遠藤・毛利コレクションも圧巻です。これは石巻市の遠藤源七・毛利総七郎が大正年間から行った同市沼津貝塚の発掘で出土したものの一部です。この中で皆さんにぜひご覧いただきたいのが、シカの角で作ったモリヤヤス、

釣針などの漁労具と髪飾りなどの装身具、ツキノワグマやキツネなどの歯牙や下顎骨で作った装身具です。漁労具の中には、柄に装着する際に接着剤として用いられたアスファルトが残っている例も多くあります。沼津貝塚の骨角器は正に骨角器のなかの骨角器と言えます。これらは土器などにも重要文化財に指定されています。

二つのコレクションには、縄文文化の中の造形美が凝縮されています。ぜひご覧ください。

Q・展示資料のなかには、福島県に関連したものもあると聞きましたが。



A・はい、福島県内の遺跡から出土した資料が二件ありますので、ご紹介します。一つは会津坂下町の竈原遺跡^{かまどほら}から出土した資料です。東北帝国大学の喜田貞吉は、国による阿賀川の水路開削工事で縄文時代の遺物が発見された竈原遺跡を視察するため、一九二五（大正一四）年、会津坂下町（当時は川西村）を訪れています。この時出土した資料の一部が法文学部奥羽史料調査部の所蔵となり、現在は文学研究科考古学陳列館に収蔵されています。今回、液体濾過土器と呼ばれる珍しい形の土器や土偶、石器などが里帰りします。



久原コレクション（青森県亀ヶ岡遺跡出土土器）

遠藤・毛利コレクション（宮城県沼津貝塚出土骨角器）



もう一つは、一九六四（昭和三九）年に調査された会津若松市会津大塚山古墳の出土資料です。三角縁神獣鏡をはじめとする出土資料は、これまで当館の常設展で展示してきたものですが、今回はそれプラス、調査のようすを撮影した映像もご覧いただけます。

東北の伝承切り紙

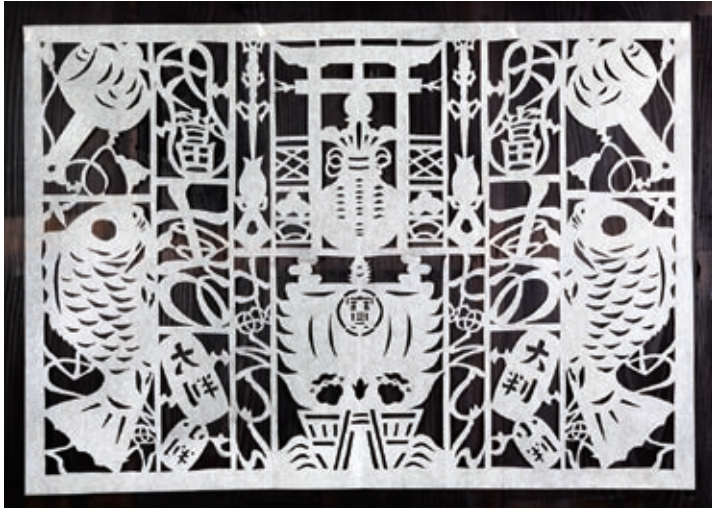
榎 陽介 民俗担当

伝承切り紙とは

紙を小刀などで切り、細工し、新たな形を作り出すのが切り紙です。そのなかで、とくに「伝承」としたのは、数代にわたって伝えられた伝承性に注目したもので、工芸品としてではなく、地域の生活に密着したものののみを対象とするためです。その伝承

切り紙ですが、正月飾りや、神楽などの民俗芸能、その他いろんな場所で見られますが、今回はそのなかで、正月飾りなどの年中行事で使われているものについて考えてみたいと思います。

切り紙を切るのは、現在では神社の方



福島県二本松市：養泉院の金包（正月神棚に飾る）

などなのですが、以前は修験や法印といった神仏とともに祀る人たちに広まっていたもののようなです。明治以後は神社になったり、場合によっては寺院として現在まで続いていた方たちですが、福島県内の例でも、法印さんよばれる、もと修験系の方々が手掛けることが多いようです。

さて、切り紙の製作技法や形から、「切透かし」「紙注連」「幣束」「人形」などに分類することができ

ます。切透かしは、紙を切り抜いて形や模様を作りだすものです。この実物は当館の部門展示室民俗に展示してあるので（縁起の良い福助が切りだされています）、ご覧になった方もいらつしゃることと思います。紙注連とは、紙で注連縄のように連なった形を作る物で複雑な切りこみにより立体的な形を作り出すことができます。幣束は幣帛や御幣ともいい、紙に切れ目を入れて折ったりしたものを棒状のものに挟んでいるものです。

分布と伝播

さて、このような切り紙がどのような分布をしているか興味深いところですが、どうも収集された事例などからみると近畿地方から



宮城県気仙沼市：琴平神社

北陸、そして新潟、山形と北上し、東北地方にあり、この流れで広まったようです。現在東北地方では宮城県から岩手県にかけて数多くの事例が見出されています。宮城県では神社庁が県内の事例を調査し一冊の本にまとめていますし、仙台市の歴史民俗資料館では展覧会もありました。岩手県でも、北上市立博物館で展覧会がありました。福島県内も、福島市、二本松市、郡山市、猪苗代町、そして会津地方といったように、各地の事例があり、かつては広くみられたようです。しかし、そのなかでも華やかなものが数多く宮城県や岩手県にあるといえそうです。

切り紙の美

このような背景をもつ切り紙ですが、ただ見るだけ、それだけで、神々しさを感じます。神秘といってもよいかもしれません。紙を切り、折り、それだけで作りだされた形が私たちの心の奥まで沁み入るように入り込んでくるのです。それを切り紙の美と呼んでもよいかもしれません。伝承切り紙は単純に黒い背景に浮かび上がる白い紙の造形を楽しむこともできるし、背後にある信仰や村のくらしというものについて思いはせてもよいだろう、いろんな楽しみがで



岩手県一関市：白澤神社

（写真撮影・大屋孝雄氏）

テーマ展「けんぱくの宝2013」

会 期：12月21日（土）～26年2月2日（日）
 会 場：県立博物館部門展示室「歴史・美術」

恒例の「けんぱくの宝」展、県立博物館収蔵品から選りすぐりの優品をご紹介します。今期は国指定重要文化財の「椿彫木彩漆笈」や戦国時代に会津で活躍した雪村周継の水墨画、修復なった初公開資料などがみどころです。



国指定重要文化財「椿彫木彩漆笈」

特集展

「東北の伝承切り紙 ―千葉惣次コレクションを中心に―」

紙を小刀で切るとそこから魔法のように生まれ出る美しい造形。それはシンプルな御幣から複雑な形が重なる神棚飾りまで、多様な展開を披露してくれます。もしも紙という素材が神々しさをまとうとすればこうなるに違いない、と思わせるほど力が満ち溢れています。なにしろ、この紙の造形は神の来臨の目印であったり、存在そのものを示すものでさえあるのですから、崇高な空気を発するのは当然かもしれません。

今回の特集展は伝承切り紙の美しさに心ひかれ、東北各地をめぐり集めた千葉惣次さんのコレクションを中心に展示します。千葉さんは千葉県の長南町に伝わる土人形、芝原人形の継承者であると同時に、郷土玩具の研究・収集家でもあり幅広い活動をしています。そして切り紙の美を崇高なまで格調高く記録した大屋孝雄さんの写真で切り紙が生活の中で息づいている様子もご覧いただけます。



宮城県南三陸町：八幡神社

■会期：平成二六年一月三〇日（木）～三月二七日（木）

企画展

- 秋の企画展
 「考古学からの挑戦―東北大学考古学研究所の軌跡―」
 会期 10月5日(土)～12月1日(日)
 ◎秋の企画展関連行事
 記念講演会「東北大学の旧石器文化研究―日本最古の文化を掘り下げる―」
 日時 10月12日(土) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 東北大学総合芸術博物館教授 柳田俊雄さん
 展示解説会
 日時 10月12日(土) 講演会終了後
 会場 福島県立博物館 企画展示室
 講師 担当学芸員
 記念講演会「サハリン考古学の先駆者 伊東信雄博士」
 日時 11月3日(日) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 東北大学文学研究科教授 阿子島香さん
 展示解説会
 日時 11月3日(日) 講演会終了後
 会場 福島県立博物館 企画展示室
 講師 担当学芸員
 記念講演会「弥生文化・古墳文化・続縄文文化」
 日時 11月23日(土) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 福島県考古学会顧問 中村五郎さん

テーマ展

- ※常設展料金までご覧になれます
 「ふるさとの考古資料4〔大熊町〕遺跡探訪」
 会期 6月18日(火)～平成26年5月11日(日)
 「現代『漆・歴史』考」
 会期 10月5日(土)～12月8日(日)
 「けんばくの宝2013」
 会期 12月21日(土)～平成26年2月2日(日)

ポイント展

- ※常設展料金までご覧になれます
 「伝統の継承」
 ―福島県立会津工業高校所蔵逸品ギャラリー―
 会期 4月6日(土)～12月15日(日)
 「八重の時代の会津人」
 会期 4月6日(土)～12月27日(金)

「近世農具の発展」

- 会期 7月18日(木)～10月9日(水)
 「会津葦名氏・伊達政宗の文書」
 会期 7月20日(土)～12月27日(金)
 「土偶ちゃん」
 会期 7月25日(木)～12月8日(日)
 「江戸から会津へ―幕末の道中絵図にみる諸藩と宿場」
 日時 9月28日(土)～12月27日(金)
 「八重の心―福島県立養高等学校所蔵資料―」
 会期 10月5日(土)～11月15日(金)
 「米作りをはじめた頃の土器」
 会期 10月26日(土)～平成26年3月2日(日)
 「古代山岳寺院―棚倉町流廃寺跡」
 会期 10月26日(土)～平成26年3月2日(日)
 「火の用心―道具でみる消防―」
 会期 10月31日(木)～12月11日(水)
 「食卓を彩った昔の道具たち」
 会期 12月19日(木)～平成26年2月19日(水)

ミュージアムイベント

- クリスマスコンサート
 日時 12月21日(土) 13時30分
 会場 福島県立博物館 エントランスホール
 出演者 未定

木曜の広場

- 「会津風土記・風俗帳の世界」7
 日時 10月17日(木) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生
 「会津風土記・風俗帳の世界」8
 日時 11月21日(木) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生
 「会津風土記・風俗帳の世界」9
 日時 12月19日(木) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

講演・講座

- ※は要申込
 ◎民俗講座
 映像で考える民俗学1
 「会津の民具を考える―木鉢と鍬柄づくり―」
 日時 10月19日(土) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 学芸員 佐々木長生
 映像で考える民俗学2「会津の絵ろうそくを考える」
 日時 11月2日(土) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 視聴覚室
 講師 学芸員 榎 陽介
 ◎歴史講座
 「八重の時代の会津人3」
 日時 11月9日(土) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 学芸員 古山智行
 「八重の時代の会津人4」
 日時 11月30日(土) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 学芸員 高橋 充
 ◎自然史講座
 ※「化石をさがそう」「化石標本をつくらう」
 日時 10月12日(土) 9時～17時30分
 10月13日(日) 13時30分～15時30分
 会場 12日野外、13日福島県立博物館 実習室
 講師 学芸員 相田 優ほか
 ※「鶴ヶ城の野鳥」
 日時 11月24日(日) 13時30分～15時30分
 会場 鶴ヶ城公園
 講師 野鳥研究者 古川裕司さん

実演

- 「檜枝のガバぞり作り」
 日時 11月4日(月) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 体験学習室
 講師 伝統技術保持者 平野チサエさん

後援事業

- ※入場料金が必要
 大名庭園「サミット in 会津若松」
 日時 10月6日(日) 14時～16時30分
 会場 福島県立博物館 講堂 視聴覚室 実習室

会津大塚山古墳関連講演会

- 「会津大塚山古墳の意義―発掘後50年―」
 日時 10月13日(日) 13時15分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 法政大学名誉教授 伊東玄三さん
 会津史学会歴史文化講演会
 「建造物から見た会津の歴史(仮)」
 日時 10月20日(日) 13時～15時30分
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 東京造形大学講師 松崎昭明さん
 ※宇宙に夢中!「講演会」映画上映会「実験・工作」
 日時 11月17日(日) 13時～16時30分
 場所 福島県立博物館 講堂・実習室
 入場料金 1人500円
 主催 会津そらの会
 放送大学講演会「演題未定」
 日時 12月1日(日) 13時30分～16時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 福島大学 佐藤理夫さん
 会津史学会公開文化史講座「演題未定」
 日時 12月12日(木) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 学芸員 高橋 充

常設展無料開放日

11月3日(日) 文化の日

企画展無料開放日(ふくしま教育週間のため)

※小学生・中学生・高校生のみ
 11月1日(金)～11月7日(木)
 ただし、休館日は除きます。

10月～12月の休館日

10月7日(月)・15日(火)・21日(月)・28日(月)
 11月5日(火)・11日(月)・18日(月)・25日(月)
 12月2日(月)・9日(月)・16日(月)・17日(火)
 24日(火)・28日(土)・31日(火)